チョウとの出会い：ツマベニチョウ　931228, 971230, 110520, 180706, 200330

Sep. 2, 1993　沖縄本部町平敷

蝶採集ガイド『沖縄八重山蝶採集ガイド(蝶研出版1985)』に示されるおおざっぱな地図を参考に乙羽岳を巻くように走る林道の山越コースへのチャレンジを選択する。始発の今帰仁(なきじん)回りバスに乗客は筆者ひとりだけ。途中の空にはまだ雨雲があるけど少しでも明るくなると窓外にシロオビアゲハの姿が見え「沖縄にきたのだ」との思いが込み上げる。約 8 年前の蝶採集ガイドに従って平敷で下車。バス停近くにいたおじさんに伊豆味に越えられる道筋を尋ねると、まだ降る雨のなかをなぜ、というような顔をしながら所要 1-2 時間のコースを教えてくれる。傘をさしたまま坂道を登りはじめる。民家が遠くなって本格的な林道がスタートしたあたりにサトウキビ畑が広がる。その山側にハイビスカスの垣根が設けてある。おりしも雨がやんで南国特有の熱気を肌に感じ始めたそのとき、どこからともなく大きなツマベニチョウがハイビスカスの真っ赤な花をめざして舞いおりてくる。背景の山の緑に翅表先端部の紅色があざやかに映える大きな白い蝶が、次々とふってわいたようにハイビスカスの花に集まってくる。かつて種子島の荒木フミエさんが飼育した蛹を送ってもらい、羽化した蝶として目にはしていたけれども、自然の中でいきいきと舞い集うツマベニチョウが今まさに目の前にたくさんいる。これは感動ものであった。ツマベニチョウを次々とネットに納めては完全度を確認し、羽のやぶれた個体はそのまま放してやる。よくよく考えると、標本として価値があるとする新鮮な個体であればあるほど当のチョウ自身は自然界でまだまだじゅうぶんに楽しんではいないわけで、申し訳ない気分にはなる。

Oct. 31, 1997　石垣島登野城

嵩田植物園から1kmもいかない道路沿いでツマベニチョウが舞う。たたみ込んでいたネットを広げてこちらに飛んでくるツマベニに迫ったが不規則な上下飛翔にタイミングを外される。本日はこれでお終いと歩きはじめた視野左奥に多分ツマベニチョウとおもわれる大きめの白が舞う。よく見ると畑地に赤い花の垣根があってそこにツマベニが訪れている様子。民家前の小道を進んで畑地に出る。垣根の赤い花はサンダンカ。時刻は 15 時を過ぎて天気もよくないのだが、幸いツマベニの宴の時間はまだ続いていたようで 1 pair をしとめて納得のいく成果。八重山諸島産のツマベニ捕獲は初めてだ。16 時もまわったので明日はカメラをもってきてツマベニのいい写真をとろうと考えながら石垣市内へと歩いてもどる。

石垣島産、沖縄名護市伊豆味産、種子島野首産と並べて比較すると前翅ベニ色の内側を縁取る黒色部が北から南へと少しずつ狭くなるという地域変異がみられる。なお、与那国島産の♀

Nov.1,1997 石垣島登野城嵩田

Oct.30,1995 沖縄本部名護市

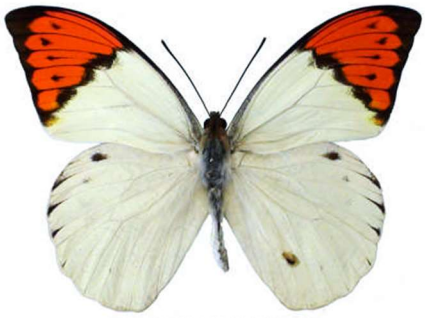
June 10,1984 種子島野首産飼育羽化

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.

は黄色味の強い個体が多いといわれるが、沖縄本部町でもそういう♀個体を採っているし、同じ本部町で得た卵から初めてツマベニチョウを飼育したときに羽化した♀もずいぶん黄色味が強い個体であった。また、同年、名護市伊豆味でインパチェンスを訪れた♂を捕獲しているが、前翅三角型ベニ紋の一番下に黄色い紋のある珍しい個体である。

Nov.1,1997 石垣島登野城嵩田

Nov.5,2006 沖縄本部町


Nov.5,2006 名護市伊豆味

Nov. 6, 2006　今帰仁→本部町→八重岳

カーナビが乙羽岳林道経由の設定を受けつけないため、伊豆味を経て再訪問予定の八重岳桜公園をセットしてホテルをあとにする。観光スポットの今帰仁城跡横を通り、本部町という標識を越えて広くてきれいな道で下っていく。その道中、密度濃いサンダンカを垣根とする民家があらわれ、いきなりツマベニチョウの姿が目に入る。赤ネットとカメラをもって車から降りると サンダンカ花壇がある側とは反対側にもハイビスカスが多い適度の斜面があって、そこにも複数のツマベニチョウが求蜜しているのがみえる。チョウの密度が濃い左道路下を優先しようと進むと、ふいに右側人家から老婦人が大きなビニール袋をもって道路わきにあらわれ、空き缶の回収日なのかゴミ専用と思える網かごに収める。ついでそこの嫁さんとおぼしき女性も出てきて、当方のいでたちに「チョウだったらうちの奥にたくさん飛んでいるよ」と声をかけてくれる。ありがたい申し出ではあるが、いったいどんなチョウがどういう環境で飛び交っているのかが分からず、今はすぐ目の前で当方の意図が容易にかなえられる状況が展開していることから「写真をとるのにも花の数や高さなどここで十分ですから」と断って、まさにツマベニチョウの♀が訪れているハイビスカス現場へと走る。完全な個体からかなり羽の傷んだ個体まで、いろんな状態のツマベニチョウがあちこちと花の蜜を求めて飛び交うなか、できるだけきれいな個体をターゲットにカメラで追う。標本用の♂も完全個体を探して捕獲し、♀の数も多いことを確認して、鱗粉がやや黄色味を帯びたきれいな♀をネットに収める。

61105 沖縄本部町 ツマベニチョウ♀

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.

Dec. 1-2, 2012　与那国島アギンダ

石垣島・与那国島地域の天気予報を気にして、当初予定の 11/17 出発を 2 週間遅らせて石垣島に入る。目的は Full High Vision Video Camera で可能なかぎりチョウの映像記録を撮り、普通種をメインに、2013 年青少年の科学の祭典に必要な標本を確保すること。

Dec. 1, 2012：　11 時与那国島着。与那国ホンダの HONDA-Fit を借りて活動開始だが、雲が厚くタイワンアサギマダラが飛来しているという宇良部岳を探索するも、アサギマダラ 1 頭をみただけ。

Dec. 2, 2012：　気象予報が外れて青空ののぞく天気に意を強くして 8 時過ぎから活動開始。ハイビスカスやセンダングサの咲くポイントでツマベニチョウ、タイワンシロチョウ、クロテンシロチョウ、ミナミキチョウ、シロミスジ、リュウキュウミスジ、タテハモドキ、アマミウラナミシジミ、クロボシセセリ、クロアゲハなどを観察。

Oct. 28, 2018　石垣島バンナ公園

次のチョウタイムは三度目のバンナ公園周回道路。サンダンカ花壇がつらなる領域ではおよそ 15 分間隔でやってくるツマベニチョウの訪花シーンを楽しむことができ、嬉しいことに♂のツーショット吸蜜シーンが眼前で展開され、しっかりとビデオ記録をとる。

シロノセンダングサの花蜜に夢中になっているツマムラサキマダラの♀がときおり翅表を見せ、新鮮度が高いイワサキタテハモドキの全開翅、V 字開翅シーンもみられる。

Copyright© 2009- Soft House JUMP. All rights reserved.